

# ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)  
群馬県前橋市元総社町七三―五  
TEL 027・2555・3434  
FAX 027・2555・3435  
http://www.neues-asahi.jp

久しぶりに書店に出かけました。店内は一部レイアウト変更があったので少し戸惑って平台に並ぶ書籍を見回しては数冊を手パラパラとページをめくって数行立ち読み。同じように本探しをしていたり、手にした本を熟読している人の姿を眺めたりして、気がついてみれば一時間近く遊んでしまいました。文芸棚には、ちよつと知っている作家の新作が一冊二冊と背表紙をこちらに向けて「読んでみて」と言葉をかけてくるように感じられ、財布を開いてお札が旅立ちます。

資料収集を何年も重ね、原稿用紙やパソコンに向かう作家の姿を思い浮かべては、作家の実人生と活字が組み立てられる文脈や行間から流れ出る感情を感じる自分の心の動きを楽しんだり、時には動揺したりします。そして異空間、異文化圏で生活している作家の多様な世界観に神経をすり減らすことさえあるのに、さらに読み進んでしまおう自分に呆れることさえあります。幅広い包容力とデリケートさと力強さと弱さ、大きな愛や、凶器と思えるような恐ろしさを作り出す言葉の世界で表現者として多くの目にさらされる世界で仕事をしている作家を尊敬の思いで、そして購入した本を手を持ち帰りました。

最近、展覧会をする作家を訪問し新作を見る機会がありました。普段はギャラリーでの立ち話くらいで制作にたいする詳細については話が進まないのですが、アトリエの作品のなかで作家の精神性を肌で感じられるほどの深い思いが伝わってきました。

教育現場という多忙で厳しい「場」から作品を作り出す制作の「場」。その両方の狭間から個である自分と向き合う姿は人の心を動かします。なかなか作家のアトリエを訪問する機会はありませんが、製作現場は作家の体内を覗き込むような感じさせます。制作途中の作品や散乱している絵具や道具、モチーフの素材などを目にすると、まるで一つ一つの臓器を見ているようで衝撃的なものです。作品が出来上がるまでの制作過程や仕事量、そして語られる言葉から展示のイメージも膨らみます。作家と正面から向き合っている感覚です。

昨今、県内外での展覧会が多く、自己表現の多様性はますます幅広くなっています。他者との交流から自己の多様性を発見することもあり、展覧会の会場とは深い部分で生きる意味を新たに感じられる「場」であるかもしれません。

文章を作り出す、絵画を描き出す、石や木を削り、そして器やオブジェを作り出す、あらゆる表現者の厳しさと寛容さから生み出される作品と向き合えるギャラリーの「場」にいる幸せを感じます。

(武藤)

## ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

### 田中悟子 個展

― 日々の花と木、花の部屋 ―

会期 七月五日(金)～十一日(木)

午前十時～午後五時

(最終日は午後三時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

### 慶陶房と仲間たち作陶展

〈企画〉

会期 七月二十日(土)～二十八日(日)

午前十時～午後五時(最終日は四時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

出品者

飯野ヒサ 境野繁夫 福島慶治  
福島位枝 星田常雄 村上優子

### 平野裕明個展

〈企画〉

会期 八月三日(土)～十一日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

沖縄の基地問題、世界各地で起きている武力衝突、銃撃、自爆攻撃、テロで多くに人々が命をおとし、子供たちも重度の栄養失調や戦火の中で生活をしています。

平野裕明氏の作品には大きな数々の問題を抱えた人々が描かれています。決して実体を感じることは出来なくても表現者としての技術と方法によって、鑑賞者は、その悲劇を肌で感じることでしょう。是非ご高覧下さい

## 桐生散策

― ある一日 ―

山積みされた雑誌の整理をしていたら平成十年の十月から十一月にかけて群馬県立土屋文明記念文学館で開催された「桐生ルネッサンス 坂口安吾、南川潤、浅田晃彦」の冊子が出てきました。

どのページを開いても懐かしい風景や建物が掲載されています。本町通り、群大工学部、桐生倶楽部など、子供の頃に歩いている自分の姿がありました。

坂口安吾が桐生にきた翌年に私は生まれているのでヨチヨチ歩きをしている頃には本町通りを闊歩していたのか……坂口安吾の三年間の桐生の生活。四十九歳で脳出血のため急死。渡良瀬川の傍にあった桐生火葬場で茶毘に付されたそうです。渡良瀬川の土手を歩いたり、橋を車で渡る時、あの煙突から煙が出ていることが思い出されました。

毎月二十四日に開催されるお地藏様の縁日へ行く途中の入りくんだ所を覗いてみると渡辺華山の妹、岩本茂登のお墓がありました。

こんな所に、と驚きました。桐生に嫁いだ妹を訪ねて渡辺華山も二〜三度来ているそうです。

桐生出身の羽仁五郎、写真家の石内都、画家の山口晃、女優の篠原涼子……と。

桐生という土地も面白い人がでるな……と思いました。ソースカツ丼や幅広うどんを昼食に、路地裏を散策してみたいかがでしょうか。

## さつぱりピクルスの作り方

ワインピネガー 1カップ  
白ワイン 1カップ  
砂糖 大きじ10と1/2  
塩 小さじ1強  
ローリエ 2枚  
赤とうがらし 1本  
コシヨウ(粒) 小さじ1/2  
きゅうり、セロリ、パプリカ、  
玉ねぎ、カブ、ニンニク1片  
ニンジン、カリフラワー

野菜は食べやすい大きさに切って水2カップに塩大きじ2に30分漬けておき、水を切っておく。  
ワインピネガー、ワイン、砂糖、塩を鍋に入れ煮立て砂糖が溶けたら熱湯消毒した瓶に野菜を入れ、ピクルス液をひたひたに入れる。(2日位から食べられる)